

新潟生活

目次
教えて先輩! ● 大好きな美術に近い現場で働きたい
Uターンの決め手はインターンシップ
特集 ● 女性が活躍できるフィールド、にいがた!

学校と社会をつなぐ橋渡しに

新潟市 西区 「みらいずworks」代表
小見 まいこさん



プロフィール ● 県内大学の教育人間科学部(現・教育学部)を卒業後、印刷会社に就職し、印刷関連業務のほか、企業研修に携わる。子どもと社会をつなぐ仕事をすることを目的に、退社を決意。今年3月、同じ思いを共有する女性とともに「みらいずworks」を立ち上げる。

<http://miraisworks.com/index.html>

キャリア教育の普及に向けて

学生時代は社会教育を専攻していたので、就職後もその学びを活かして企業研修などの社会教育を担当していました。そして、その仕事に携わっていく中で「キャリア教育」という考え方に出会い、また、日本の子ども達が世界的にみて、今の学習が社会や将来につながっているという認識や学習意欲が低いという実態を知りました。そこで、子ども達が自ら考えて行動できるようになるには、学校と社会をつなげる必要があるのではないかと考え、新潟市内の中学校にキャリア教育を提案し、実際に授業の企画や運営に

携わりました。もともと、子ども達や教育に関わる活動をしたかったと考えていたこともあり、この活動が団体立ち上げのきっかけになりました。

当団体は、小学校から大学を対象に「何を大切に生きていくのか」「どのように働いていくのか」などを考える「キャリア教育」や、自分の意見を伝えながらも相手の意見を尊重し、新たなアイデアや合意を生み出す「ファシリテーション授業」を「学校支援事業」として行っています。ただ、人づくりは学校だけではなく、地域や企業なども関わっていくことが重要であるため、「地域づくり事業」や「社会づくり事業」についても取り組んでいます。

子ども達の成長のために

活動にあたっては、先生方や子ども達の思いに寄り添っていきたくて考えているので、私達の考えを一方向的に押し付けないようにしています。また、子ども一人ひとりの意見や思いを引き出す考え方や方法を学ぶ、先生向けの研修なども同時に提案しています。

プログラムの中で、実際に子ども達が自分の役割を見つけて動き始める、自分の良さに気付いて積極的に表現するようになるなど、姿勢や表情が変わる瞬間を見ることができた時にやりがいを感じます。

今後は、同じ思いを分かち合い、一緒に活動できる仲間を増やしたいと思っています。来年はNPOの法人格を取得する予定なので、賛同して下さる方を増やし、ネットワークも広げていきたいです。

※ファシリテーション…グループ活動が円滑に進むよう支援すること。特に、組織が目標を達成するために、問題解決・合意形成・学習などを支援・促進すること。また、そのための方針。

女性が生き生きと輝くためのきっかけを提供

長岡市 特定非営利活動法人「多世代交流館 にな二ーナ」代表理事
佐竹 直子さん



プロフィール ● 保育士として勤務した後、保育現場について幅広い視野で理解するため青年海外協力隊員としてフィリピンへ渡航。帰国後、中越地震をきっかけに「多世代交流館 にな二ーナ」を設立し、子育て支援のネットワークを広げる。現在、長岡市内の大学や専門学校で非常勤講師も務める。

<http://ninani-na.com/>

「多世代交流館 にな二ーナ」について

中越地震の経験から、子育てを子育て世代だけが担うのではなく、地域や社会の色々な世代の方と共に育める場を作りたいという思いが芽生え、2007年に「多世代交流館 にな二ーナ」を立ち上げました。「にな二ーナ」では子育て支援だけでなく、多世代、多文化、多分野、多地域の

人々が交流できる場作りも行っています。例えば、不定期ですが27日に「にな市」というイベントを開催しており、参加者の女性たちが「プチ起業」を体験できる場としてもブースを設けています。自分の趣味や学んだことを活かし、作った品物をブースで販売してもらうことで、やりがいや自己実現を感じてもらえる機会の提供になっています。

新潟の女性たちへの期待

新潟の女性は、困っている人にさりげなく手を差し伸べ、下支えてくれるタイプの方が多いように感じます。その反面、自分自身が持っている魅力や特技に気づいていない女性も多いので、もっと自分の中にある財産を発見し、是非それを活かしてほしいと思っています。実際に「にな二ーナ」の活動を経て、ヨガスタジオや雑貨屋、カフェなど、起業した女性もたくさんいますので、新潟には多くのチャンスがあると感じています。

行動したいと思う気持ちがあっても、結婚や出産を経験する女性たちにとってそれを実現できるタイミングは様々かもしれません。しかし、どのタイミングでも、どのようなことからも構わないので、女性たちがどんどん挑戦することを期待しています。私自身もそのお手伝いをしたいと思います。

～お子様が帰省された際に親子で将来を話し合ってみてください～

教えて先輩! vol.31 大好きな美術に近い現場で働きたい

地元は関西、就職は関東

大学卒業後は、神奈川県川崎市で、照明をデザインする照明事務所のアシスタントとして就職しました。照明デザインといっても様々ですが、主に美術館等で作品を傷めずに美しく見せる光の設計や、建築家とコラボレーションしながら、特殊な照明器具を用いて美しい光の空間を設計するものです。主な顧客は国内外の美術館や博物館でしたが、他にも高級ブランドのショップやファサード照明、アートコレクターの自宅照明の設計などをメインに、現場に赴いての設置作業やコーディネート業務などを担当していました。一流の空間で一流の作品に囲まれ、最先端で活躍する人々と接する刺激溢れる仕事でした。

そして新潟へUターン

しかし、年々、大好きな美術により近い現場で働きたいという思いが強くなっていったため、照

明家事務所を退社し、世の中をリアルタイムに表現する現代アートの現場である「水と土の芸術祭」事務局スタッフに応募しました。とにかく挑戦と思い面接に臨み、無事合格することができました。

新潟に来るまでは、「縁も所縁もない自分が、まったく知らない土地で新潟出身の他の皆さんと一緒に仕事ができるのだろうか?」と不安でいっぱいでした。しかし、実際に来てみると、事務局スタッフをはじめ、街でふと言葉を交わす人にも優しさと穏やかさを感じることで、



少しも不安を感じることなく、芸術祭スタッフとしてスタートを切ることができました。

新潟での生活を考えている人に

新潟行きを決めるに当たって、新潟を薦めてくれた知人がいました。その方は、新潟で数年間暮らした経験がある外国人で、「新潟の良さは人の温かさ。自然も豊かだし、本当に住みやすい。」と背中を押してくれました。

もし私が、新潟に興味ある方に「新潟はどう?」と質問されたら、迷わず「温かく迎えてくれるので、何も心配する必要はない。私は思い切って新潟に来て本当に良かった。」と答えます。新潟に来てから、たくさんの方と知り合いましたが、新潟の皆さんが県外から来た作家さんや私のことを自然と受け入れて下さる寛容さは、ほんとうに素敵なことだと思っています。



川越 千紗子さん (32歳)
「水と土の芸術祭」実行委員会事務局 アートスタッフ

滋賀県大津市出身。「水と土の芸術祭」実行委員会事務局で作家6名を担当するアートスタッフとして、芸術祭の運営業務を行う。

地域 新潟市

教えて先輩! vol.32 Uターンの決め手はインターンシップ

目的を持って大学進学

実家が兼業農家だったこともあり、農作物や植物が当たり前にある環境でした。そのため、中学、高校時代から農作物と植物の「香り」に興味を持ち始め、その研究ができる大学の進学を希望し、最終的に選んだのが九州にある大学でした。

目的を持って進学したので、大学生活に特に不安はありませんでした。ただ、実際に帰省する際は、やはり毎回距離があることを実感しました。

インターンシップを体験して

Uターンの大きなきっかけとなったのが、大学3年生の時に参加した佐渡ヶ島インターンシップ体験です。当時は佐渡に帰ろうという気持ちと、帰たくない気持ちが半々だったのですが、とにかく家族の勧めもあってインターンシップに参加しました。そして、その際にイン

ターンシップ実習生として受け入れてもらった企業が、現在のJA佐渡です。実際に就職活動を始める前に就業体験できたことで、将来のイメージが広がり、佐渡に就職する大きな決め手になりました。

入社してから、まだ半年程度しか経っていないため、正直わからないことだらけですが、上司のご指導を仰ぎながら、日々学んでいます。現在は「営農指導員」としてクワイ農家を担当させていただいており、佐渡産クワイのほとんどの出荷に関わっています。農家からクワイが出荷される光景を見ると、また頑張ろうという気持ちになります。



栗津 直人さん (23歳)
佐渡農業協同組合 営農事業部 園芸振興課

佐渡市出身。高校を卒業後、九州の大学で農作物と植物の香りについて学ぶ。今年4月に佐渡市へUターン。

地域 佐渡市

Uターン情報誌

「新潟生活」と「新潟Uターン情報」をセットで無料送付しています。

新潟生活

- 新潟にUターンした先輩の体験談
- 新潟の豊かな暮らしや魅力的な仕事の紹介など

新潟Uターン情報

- 新潟県内企業の紹介
- 就職活動の動向
- 就職ガイダンスのお知らせなど

送付をご希望の方は、ニイゲットでお申込み、又は新潟県県民生活課までお問い合わせください

新潟くらしのポータルサイト niiGET

ニイゲット <http://www.niiget.jp>

- ニイガタビト**
週替わりで「新潟人」にフォーカスした特集を掲載しています
- オススメ情報**
新潟のグルメイベントなどの口コミ情報を週5回お届けします
- 新潟トピックス**
新潟県内の社会・経済情報を見ることができます
- 合同企業説明会スケジュール**
県内外で開催される合同企業説明会の日程が確認できます

お申し込み・お問い合わせ
新潟県県民生活課
〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1
TEL025-280-5112(直通)

女性が活躍できる フィールド、にいがた!

県内の女性の就業率は全国平均を上回っており、結婚後の就職率も全国で上位に位置しています。また、近年は「女子力」「〇〇女子」といったキーワードが浸透するなど、女性の活躍の場が広がり、新しい視点として注目されています。そこで今回は、女性目線を積極的に取り入れ新しい取り組みを行っている団体や企業、目標に向かってチャレンジしている女性を紹介します。

有配偶女性就業率
(25～44歳)

全国 新潟県
5位 73.7%

女性就業率

全国 新潟県
14位 48.1%
(全国平均 47.1%)

全国順位	都道府県名	就業率
1	島根県	76.2
2	山形県	75.9
3	富山県	75.5
4	福井県	74.9
5	新潟県	73.7
...
30	広島県	62.9
34	宮城県	61.3
36	愛知県	60.8
39	福岡県	59.4
41	北海道	58.5
42	東京都	58.4
46	大阪府	54.7

※総務省統計局「国勢調査報告」、県HPより
※正規雇用及び非正規雇用の合計値

“ドンナ”ことでもサポートします!

新潟市中央区 株式会社 第一印刷所 営業開発部 ソリューション課
クリエイティブ・インフォメーション・センター(CIC)
専門役 高橋 純子 さん

プロフィール ● 2012年、CIC(企画セクション)に所属する女性20人とともに女子企画チーム「d'onna(ドンナ)」を立ち上げる。リーダーとしてチームをまとめ、「d'onna」の活動を支えている。

<http://www.dip.co.jp/donna/>



女性で地元の観光を盛り上げたい

南魚沼市 南魚沼市女子力観光プロモーションチーム
井口 杏奈 さん

プロフィール ● 南魚沼市出身。千葉県の大学を卒業後、トレーナーとしてスポーツジムに就職。そしてUターン。現在、看護師や保健師の資格取得を目指し、地元の特設専門学校に通いながら「南魚沼市女子力観光プロモーションチーム」(以下「女子プロ」)のメンバーとして活動中。

<http://joshi-ryoku.jp/>



「おもてなしの心」を大切に

南魚沼市が「道の駅」にトイレを開設する際、小さな子どもを持つ女性でも快適に使える設備になるよう市長に提言し、その通り実現していただきました。また、冬シーズンは積雪により足場が悪くなるため、観光客向けに長靴のレンタルを提案し、実施しました。女性に喜んでいただくためにお洒落な長靴を揃えたので、観光客からは大変好評でした。

これまでの活動を通して、観光は施設の整備も当然重要ですが、それだけでなく人と人のつながりが根底にあるということも学ばせてもらいました。これからも「おもてなしの心」を大切に、南魚沼市に密着した活動を展開していきたいです。



立ち上げの経緯

「女子プロ」は、リーダーが南魚沼市長に「女性目線を活かした観光支援チームを作りたい」と提案したことにより、2010年10月に結成されました。メンバーは、公募で集まった女性のボランティアです。学生、主婦、社会人などの幅広いメンバーから構成され、各々の得意分野に即した目線で意見を出し合います。南魚沼市の観光事業に関する企画提案を行うほか、ホームページに一般の方から寄せられる観光についての問い合わせにも対応しています。最近では、県内外で開催されるイベントのパネリストとしての依頼や各メディアから取材のお話をいただくなど、徐々に知名度が上がってきているので嬉しく思っています。

応募のきっかけ

南魚沼市で開催された大規模なイベントに携わった際、地元の観光について改めて勉強しました。それをきっかけに、地元の魅力をさらに理解したいという気持ちが芽生え、「女子プロ」2期生メンバーの募集に応募しました。実際にメンバーとして活動していると、痒いところに手が届き細かい発想ができることや、何事も無理だと決めつけずにまずやってみようという取りかかりの早さや発信力が、「女子プロ」の良さであるとともに、女性が持つ特性であると感じます。メンバーは皆、何らかの分野に精通した女性ばかりなので、私も専門知識を身に付け、活動に活かしていきたいと思っています。



「女子プロ」リーダー
小林 昌子 さん

旅行先は主として女性が選ぶ傾向があり、女性に気に入っていただける企画をすれば男性もついてきてくれます。女性の目に留まるには、やはり地元女性ならではのPRが大事だという思いから、「女子プロ」は誕生しました。情報化時代の中、マーケットに果敢に攻め込んでファンを増やし、地域の誇りを伝えられるチームを目指しています。

女子力で新潟を盛り上げたい

当社企画セクションのCICは、半数以上が女性という社内でも珍しい部署です。以前から、女性だけで何かやってみたくて考える人もいたのですが、なかなか具体化しませんでした。

そんな中、2011年に女子サッカー「なでしこジャパン」がW杯で優勝し、世の中に元気を与えたことに刺激を受け、「私達も女子の力で新潟を盛り上げたい!」という思いが高まりました。そして、その思いを形にするため、女子企画チームの立ち上げに向けて企画書を作成することになりました。当社は、積極的に社員の子育て支援を行うなど、女性を応援する風土を持つ会社だったこともあり、企画書を提出すると、すぐに立ち上げが決まりました。

初めてのミーティングで、イタリア語で「女性」を意味する「d'onna」をチーム名とすることにしました。このネーミングには、ほかにも「ドンナことでもご相談ください」「ドンナことでも解決します」の意味が込められています。



立ち上げを聞いて

「いよいよスタートか!」というのが率直な感想でした。以前、提言したこともあったので、やっと本気になってくれたと安堵した一方で、継続できるのかという不安もありました。しかし、今は成果を出しつつあるのでよかったです。

これまでの活動内容

今までの主な活動実績として、女性向け新商品のパッケージデザインや販促提案などを行ってきました。また、一般的に男性市場と考えられているものに対しても、女子目線でサポートさせていただいています。

県内には、商品のターゲットが女性にもかかわらず、ほとんどが男性社員といった会社もあるため、そのような企業からは、「非常に参考になった」と好評です。一方で、女性が多い企業からは、女性同士なので「話しやすい」「話が通じやすい」と親近感を持っていただいています。

お客様からの依頼のほかにも、自社の新サービスを開発しようという「d'onna」のママチームで検討を重ね、「ママ&キッズ工房」というサービスをスタートしました。これは子どもの名前や写真を使って

オリジナルグッズを1個から作れるサービスで、商品デザインにも「d'onnaママ」の声が活かされています。

CICは、世の中の動きに常にアンテナを張り巡らせながら情報収集している部署であり、そこに所属する女性達の生の意見やアイデアを提供できることが「d'onna」の「売り」です。時には、厳しい意見が出ることもあり

ますが、それを「商品開発」「サービス」「プロモーション」に活かすご提案が可能です。

今後の展開

他の企業や団体でも女子チームが立ち上がっていますので、様々な連携をしながら、活動の場を広げていきたいと考えています。例えば、料理研究家の意見を聞きたいという要望があった場合、「d'onna」だけで解決することはできないかもしれません。しかし、より多くのつながりを持っていれば、要望に応えられる可能性が高まります。連携することで、できることが増え、できることが増えれば、当社の目標でもある「お客様のゆめ応援企業」に近付けると考えています。

これからも、女子力でもっともっと新潟を元気にしていきたいです。



株式会社 第一印刷所 常務取締役
企画開発本部長(「d'onna」統括責任者兼アドバイザー)
阿部 正喜 さん

女子目線の長所

消費者の立場、生活者の立場から「自分だったらこんなものが欲しい」という特徴を強化することで、男性では気付かないことを提案し、説得できる「チカラ」を持っていることだと感じます。そのような女子目線の考え方・提案を、「ものづくり」「ことづくり」「地域づくり」にまで広げてほしいです。

期待すること

女性ならではのパワーでチームの活動を推進するのはもちろんのこと、男性陣に刺激を与えてもらい、組織全体が活性化することも期待しています。「d'onna」には「新潟初」の新しいブランドになってほしいと思っています。